

指導教員が掲げたゴール



ディスカッション後の感想



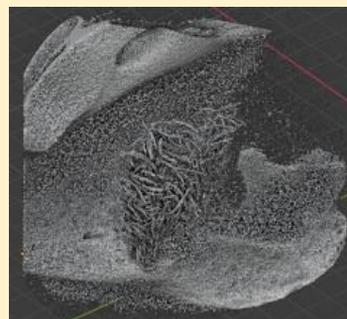
所属 医学系研究科 博士課程 医科学専攻

Within the context of sustainable development, my research focuses on the regeneration of bone using innovative materials. This research aligns with several key SDGs.

Goal 3, 'Good Health and Well-being,' recognizes the importance of advancing medical technologies to ensure healthy lives and well-being for all. By exploring bone regeneration methods, we aim to address major health challenges related to bone injuries and cancers, improving the quality of life for individuals.

Goal 4, 'Quality Education,' is essential in this research as it involves disseminating knowledge and training healthcare professionals in the latest bone regeneration techniques. Through education and skill-building, we can foster a sustainable healthcare system capable of providing effective treatments.

Goal 9, 'Industry, Innovation, and Infrastructure,' plays a crucial role in promoting research and innovation in the medical field. The investigation into materials for bone regeneration contributes to sustainable industrialization and infrastructure development, enabling access to advanced healthcare solutions for communities worldwide. Overall, this research endeavors to contribute to a more sustainable future by improving healthcare accessibility and advancing medical technologies for bone regeneration."



指導教員が掲げたゴール



ディスカッション後の感想



所属 医学系研究科 博士課程 医科学専攻

口腔癌は日本においては希少癌という位置付けですが、日本における口腔癌患者は年々増加傾向にあり、特にアジア圏を中心に罹患率が非常に高いのが特徴です。また現在の口腔癌治療の第一選択は手術であり、手術による顎口腔の形態の変化により、食事摂取や見た目といった点で口腔癌患者さんのQOL（生活の質）が低下します。

アジア圏は経済成長とともに高齢化も進んでおり、今後高齢の口腔癌患者の治療症例が増加することが考えられます。今回のディスカッションを通して、自身の研究成果が目の前の患者さんの役に立つのみならず、アジア圏を中心に将来的にも役に立つ可能性に気づきました。

今後、多くの学会や雑誌にて自身の研究成果を発信できたらと思います。



指導教員が掲げたゴール

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



10 人や国の不平等
をなくそう



ディスカッション後の感想

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



所属 医学部医学科

医学部では、英語必修科目以外で、さらに英語力を身につけたいと希望する学生を対象に、医学部独自のプログラムを8科目開講しています。その中の一つに「臨床英語」講座があります。本講座でのディスカッションを通じて、以下2つのSDGsのゴールの達成がなされるのではないかと考えます。

3「すべての人に健康と福祉を」:ディスカッションを通じて医学知識を英語で理解することで、英語に対する抵抗が少なくなり、医学を英語で学ぶ姿勢が培われます。そうすることで英語の論文にもアクセスしやすくなり、最新の医学知識を身につけることができます。このように学生のうちから英語で学ぶ習慣があれば、将来医師となったときに、国内のみならず海外からの情報にも直ぐにアクセスでき、結果として最善の治療を日本人および外国人に提供できるのではないかと考えます。

4「質の高い教育をみんなに」:低学年はまだ臨床医学を学んでいないため、臨床医学については高学年の学生が低学年の学生に教えることもあります。反対に、低学年で主に学ぶ基礎医学に関しては、低学年から高学年の学生に教えてもらうことが多く、お互いが教えあう環境となっています。そこに先生のレクチャーも合わさると、結果として質の高い教育がみんなに提供されていると考えます。